



国立大学法人

東京医科歯科大学

TOKYO MEDICAL AND DENTAL UNIVERSITY

法人番号 23

令和5年度自己点検・評価報告書 (指定国 KPI 関係)

令和6年7月

国立大学法人

東京医科歯科大学

指定国立大学法人構想 K P I

要素	項目		現状 (2019年度)	第4期終了時 (2027年度)	第5期終了時 (2033年度)
研究力強化	1	ハブ海外協定校数 ※累計の実績	3大陸/4校	4大陸/7校	5大陸/10校
	2	国際共著論文比率 ※直近5年分の平均値	21.9%	30%	40%
	3	Top10%論文数 ※直近5年分の平均値	201本	1.25倍	2倍
	4	(国内外の)卓越大学の教員としてはばたく若手研究者 ※累計の実績	–	25名	50名
人材育成	5	卓越学生へのインセンティブ付与 ※単年度実績	–	5名	10名
	6	大学発ベンチャー ※累計の実績	5社	20社	50社
国際協働	/	ハブ海外協定校数 (再掲) ※累計の実績	3大陸/4校	4大陸/7校	5大陸/10校
	/	国際共著論文比率 (再掲) ※直近5年分の平均値	21.9%	30%	40%
ガバナンス	7	海外向けプレスリリース ※単年度実績	15件	30件	60件
社会連携	8	民間資金収入 ※単年度実績	17億円	22億円	27億円
財務基盤強化	9	基金の募金額 ※累計の実績	2.8億円	17億円	24億円
	/	大学発ベンチャー (再掲) ※累計の実績	5社	20社	50社

（1）人材育成・獲得

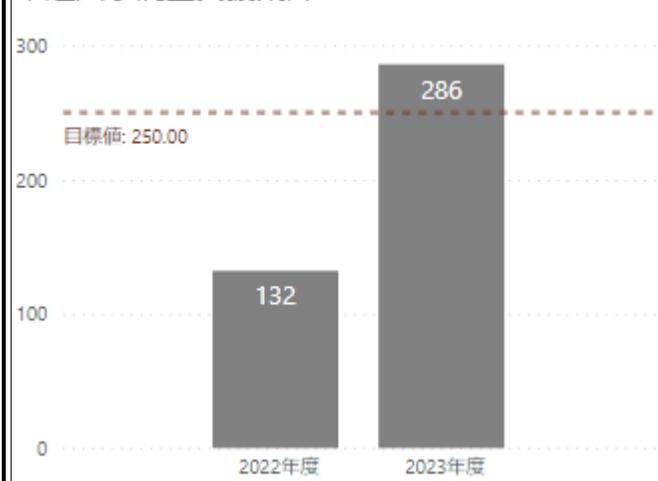
【卓越大学院生へのインセンティブ付与】※第4期目標値達成済み

大学フェローシップ創設事業および次世代研究者挑戦的研究プログラムの採択により TMDU 卓越大学院生制度運営委員会および同選考委員会を組織し、博士課程在籍者のうち TMDU 卓越大学院生 I として大学院生 18 名、TMDU 卓越大学院生 II として大学院生 136 名を新規に採用した。卓越大学院生には生活費月額 16 万円と研究費年額 50 万円を支給し、さらに卓越博士賞、海外活動支援、国内研究室活動支援、英語校正支援、英語論文掲載支援、共同研究支援として研究費を増額することにより主体的な研究活動を促進した。また研究スキルの向上やキャリアパスの形成などの各種セミナーへの参加を促し、研究発表や学術交流の場となるリトリート合宿も開催した。令和 6 年度以降も後継事業に採択され継続している。

指定国立大学法人構想における評価指標

第 4 期中期目標期間終了時目標値	5 名
令和 5 年度実績値	154 名

卓越大学院生支援累計



参考：第 4 期中期目標・中期計画重要評価指標モニタリンググラフ

【大学発ベンチャー】※第 4 期目標値に向けて予定を越える進捗

教職員や学生の起業マインドを醸成するため、学内のコミュニケーションアプリを用いて、本学の起業マインドセミナー参加者へ Greater Tokyo Innovation Ecosystem (GTIE) や東京都の取組を紹介するとともに、起業に向けた具体的な支援メニューの活用を促す取組も行っている。また、日本経済団体連合会での田中 中学長の講演や、アジア最大級のパートナーリングイベントである BioJapan へ出展等により、本学の産学連携に関する取組をアピールしている。加えて、令和 6 年度からは、学内の各専門分野のメンターを置き、必要に応じて実践的なメンタリングを受けられるよう、制度を拡充する予定である。

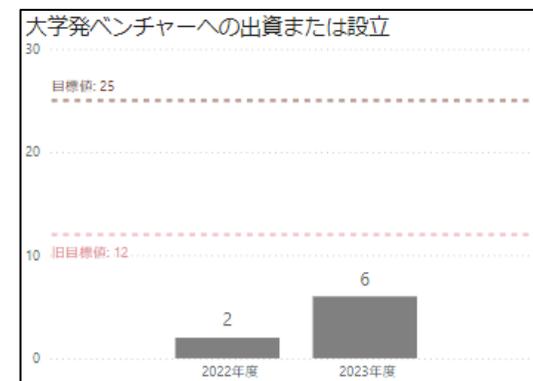
このような学内の起業に向けたマインド養成や支援に係る取組の実施により、今年度は、大学発ベンチャーを 4 社新たに設立している。

指定国立大学法人構想における評価指標

第 4 期中期目標期間終了時目標値	20 社
令和 5 年度までの累積値	13 社

○第 4 期目標達成に向けた今後の方向性

既存の取組をさらに強化することに加えて、令和 6 年度からは、学内の各専門分野のメンターを置き、必要に応じて実践的なメンタリングを受けられるよう制度を拡充する予定である。このような学内の起業に向けたマインド養成や支援に係る取組の実施により、より多くの教職員や学生が起業に興味を持ち、具体的な行動を起こすきっかけを作ることを目指している。



参考：第 4 期中期目標・中期計画重要評価指標モニタリンググラフ

(2) 研究力強化

【国際共著論文比率】

【Top10%論文（出版物）数】※第4期目標値に向けて順調に進捗

異分野の研究者の情報交換や親睦を深めることを目的として、毎月第4水曜日に「Meetup」（研究者交流会）を開催し、優秀な論文作成を促進した。加えて、若手研究者支援では、特に将来の研究者の基軸となり得る「卓越大学院生」に対して、海外での研究発表やラボ見学に加え、今年度より新たに研究論文の英訳校正や掲載費の金銭的支援も行っている。

その他に、令和6年10月の東京工業大学との統合を見据えて、両大学の卓越した研究を報告する機会や、共同研究促進を目的とした「マッチングファン」による研究資金の支援等により、医歯工連携の活発化を図っている。

このような取組により、国際共著論文の令和5年度（直近5年の平均）は26.23%（485報）、被引用数Top10%論文（出版物）数は209報となり、平成30年度の201報と比して1.09倍となっている。なお、被引用数Top10%論文（出版物）数の直近2年の値はScivalからの出力時期により、数値の変動が大きくなる傾向があるため、参考値となる。

○第4期目標達成に向けた今後の方向性

今後は、ハブ海外協定校を増加し、研究者の相互訪問や共同研究の開始をさらに促進する予定である。さらに、若手研究者の海外研究活動を増やすためのサバティカル制度などの取組を進め、海外とのクロスアポイント研究を行う研究者を増やす等、国際共同研究の拡大を図る方針である。

※国際共著論文比率（直近5年の平均）

指定国立大学法人構想における評価指標

第4期中期目標期間終了時目標値	30%
令和5年度実績値	26.23%

※Top10%論文（出版物）数（直近5年の平均）

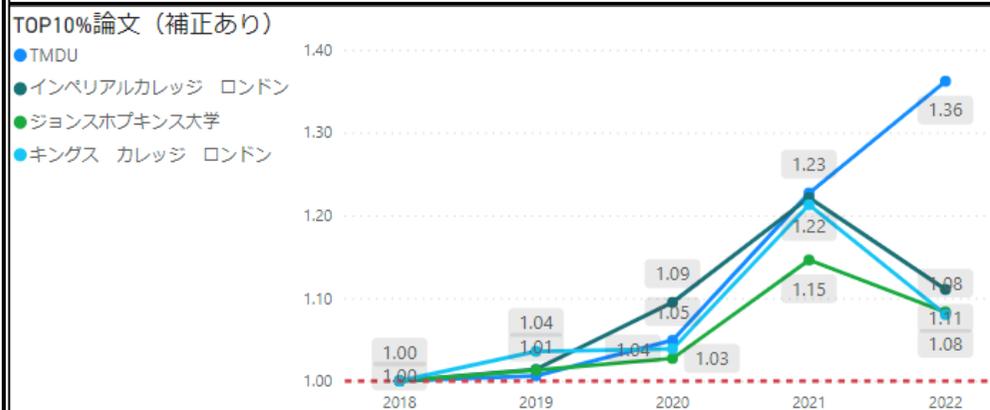
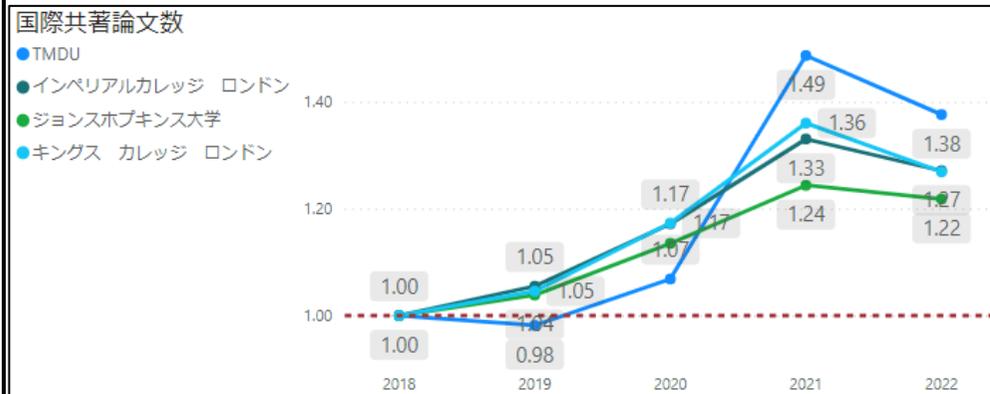
指定国立大学法人構想における評価指標

第4期中期目標期間終了時目標値	1.25倍
令和5年度実績値	1.09倍

※国際ベンチマーク大学との比較

本学の国際共著論文数は2020年以降順調に増加しており、2022年は対2018年比で1.38倍となっている。また、本学のTop10%論文数も毎年順調に増加し、2022年は対2018年比で1.36倍となっており、両指標とも国際ベンチマーク大学（インペリアル・カレッジ・ロンドン、キングス・カレッジ・ロンドン、ジョンズホプキンス大学）と比べても高い伸び率である。

令和4年度に「創生医学」「難病・希少疾患」「口腔科学」を「重点研究領域」として設定し、異分野融合研究や若手研究者育成を促進したことや、前述した令和5年度における取組、今後の方向性の進捗により、今後も国際共著論文数やTop10%論文数が増加していくことが期待される。



【卓越大学の教員としてはばたく若手研究者】※第4期目標値に向けて予定を越える進捗

今年度は、本学と同等以上の卓越大学へ教員として10名が転出した。また、若手研究者支援センター（YISC）を中心として、次世代研究者育成ユニット、重点研究領域、テニュアトラック、研究者交流会、現役ハーバード大学PIとの少人数形式セミナーに対して、研究助成・支援を行い、優秀な研究者の育成に貢献している。

○第4期目標達成に向けた今後の方向性

人材の循環は、日本全体として考えると研究者の職の安定につながることから重要なテーマと考えており、引き続き、優秀な研究者の育成に尽力していく。

指定国立大学法人構想における評価指標

第4期中期目標期間終了時目標値	25名
令和5年度までの累積値	27名

【ハブ海外協定校数】

※（3）国際協働を参照

(3) 国際協働

【ハブ海外協定校】※第4期目標値に向けて順調に進捗

「海外拠点の在り方検討会」にて検討を重ね、本学の海外拠点構想（北米から1校、欧州から2校、豪州から1校を候補として選定し、本学の海外拠点校として設置する）の方針について、令和5年6月26日開催の学長・理事懇談会にて大枠の了承が得られた。また、拠点構想の方針及び大学統合を踏まえた新大学としての拠点構想の検討を進め、大学として重要なパートナー機関選定のための協定校締結機関等のカテゴリー分類調査を全部局に対して実施した。その上で、各部局の国際交流担当教員により構成された「カテゴリー検討WG」を設置し、全学的な視点での方向性の確認を行った。

○第4期目標達成に向けた今後の方向性

本学の海外拠点構想を本学と東京工業大学で組織する「国際戦略WG」において検討し、重要機関や重点地域等、新大学における海外拠点の方針を形成する予定である。

指定国立大学法人構想における評価指標

第4期中期目標期間終了時目標値	4大陸7校
令和5年度実績値	3大陸4校

【国際共著論文】

※(2) 研究力強化を参照

(4) 社会との連携

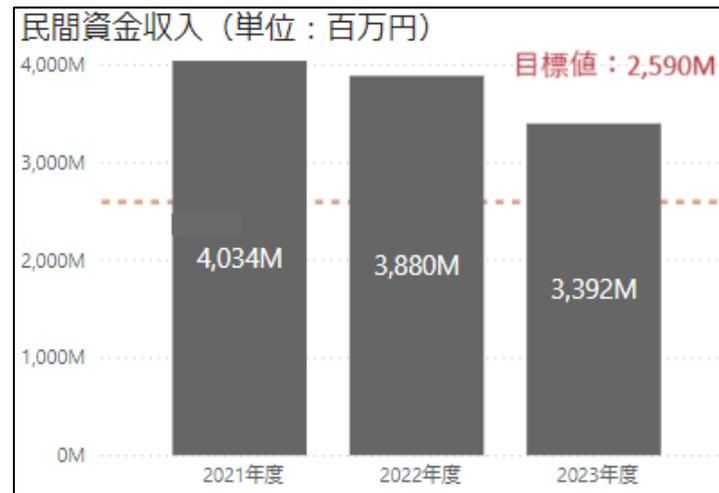
【民間資金収入】※第4期目標値達成済み

特許・MTA、治験、資産活用、共同研究、寄附金、基金等、民間資金に関連する各項目で増収に向けた取組を実施し、今年度は、第4期中期目標期間終了時目標値である約34億円（令和6年3月末時点）を達成した。

特に、資産活用では、12号館の建築完了により、貸付料収入が約5,537万円（対前年度比2.8倍）となった他、新型コロナウイルス感染症拡大による利用制限が解除されたことで、講堂等利用料収入が約1,760万円（対前年度比1.3倍）になる等、収入額が着実に増加している。

指定国立大学法人構想における評価指標

第4期中期目標期間終了時目標値	22億円
令和5年度実績値（令和6年3月末時点）	34億円



参考：第4期中期目標・中期計画重要評価指標モニタリンググラフ

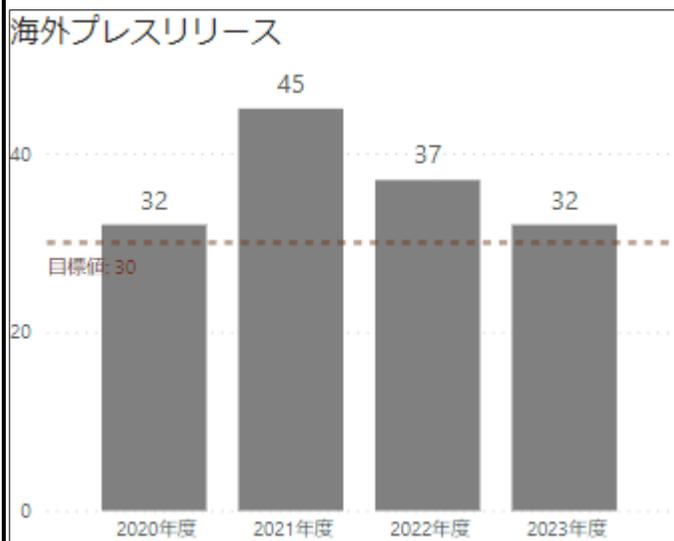
(5) ガバナンスの強化

【海外向けプレスリリース】※第4期目標値達成済み

今年度の国際プレスリリースについて、科学プレスリリースのプラットフォームである EurekAlert!へ英文プレスリリースを投稿することで、投稿後にメディアに掲載された件数は32件（令和6年3月末時点）であった。これは、第4期中期目標期間終了時目標値を引き続き超える水準となっている。

指定国立大学法人構想における評価指標

第4期中期目標期間終了時目標値	30件
令和5年度実績値（令和6年3月末時点）	32件



参考：第4期中期目標・中期計画重要評価指標モニタリンググラフ

(6) 財務基盤の強化

【基金の募金額】※第4期目標値に向けて順調に進捗

平成23年度に設立した大学基金は、総額13.7億円（令和6年3月末時点）を超えており、順調に基金額を伸ばしている。特に、令和5年度は、大学統合による本学への関心の高まりといった社会的機運の他、同窓会との連携による同窓生からの団体を指定した寄附や、相続セミナーを通じた募金活動、遺贈及び元患者からの寄附があった。これらにより、令和5年度は約3.0億円の寄附（令和6年3月末時点）があり、令和4年度を約8,500万円上回る寄附を受け付けることができた。

○第4期目標達成に向けた今後の方向性

東京工業大学と連携し、大学統合に向けた統合支援基金（仮称）の立ち上げを検討していく。さらに、医学部80周年（2024年度）および歯学部100周年（2028年度）についても各同窓会と連携し、引き続き検討をしていく。

指定国立大学法人構想における評価指標

第4期中期目標期間終了時目標値	17億円
令和5年度までの累積値（令和6年3月末時点）	13.7億円



参考：第4期中期目標・中期計画重要評価指標モニタリンググラフ

【大学発ベンチャー】※（1）人材育成を参照